

FD 委員会便り

2024【第1号】

2024年11月19日発行

新潟県立大学 FD 委員会

第1回FD研修会が開催されました

9月19日（木）「第1回FD研修会」が開催され、23名の教職員の方々にご参加いただきました。当日の様子といただいた感想をご報告します。

テーマ：アナウンサー研修から学ぶ 学生を引き込む話し方

講師：大杉りさ氏（フリーアナウンサー）

日時：令和6年9月19日（木）13:00～14:45

会場：1252教室（データサイエンス・多目的利用室）

形式：対面のみ

参加者：23名（本学教職員）



本研修会では、授業でいかに学生の関心を引きつけ、理解を深めるための「言葉の伝え方」を学ぶことを目的に、新潟を拠点にアナウンス業務を担われている大杉りさ様を講師にお迎えし、言葉を他者に伝える際の心構えから実践的な技術や練習方法まで、具体的にご指導をいただきました。

講義の冒頭では、教員が学生に与える印象を高めるための細やかな配慮や、授業の到達目標に向けた道筋を示す“目次”の安心感について説明がありました。続いて、授業中の学生とのコミュニケーションでは、話し言葉の内容が伝わるのはおよそ35%程度であり、残りの65%を占める非言語的なコミュニケーションの重要性が強調されました。

講義の後半では、教職員に役立つ基本的な発声法を学ぶ実践セッションが行われ、大杉さんの実演を交えながら参加者全員で練習しました。準備運動から腹式呼吸法、さらには滑舌を向上させるための日本語母音の発音練習など、丁寧な指導のもと、実践的なトレーニングに取り組みました。教員は普段から長時間話すことに慣れているものの、この練習の後にはこれまでに感じたことのない口周りの筋肉の疲労を覚え、アナウンス技術に基づいた発声練習を定期的に行う価値を実感しました。

講義の最後には、言葉に感情を込めるための抑揚と強調の技術が紹介されました。ゆっくりとした大きな声で、少し高めの音程で、間を置いて話す方法が実演され、効果的な伝え方のポイントが示されました。

大杉りささんは、講義全体を通じて多くの情報を伝えてくださいましたが、その語り口は落ち着いており、急かされることなく耳に心地よく届きました。アナウンサーとしての卓越した伝達技術に深い印象を受けるとともに、今後の学生とのコミュニケーションで心がけるべき点について学ぶ貴重な研修会となりました。

【参加者アンケートより】(抜粋)

1. 研修会の感想

- * 楽しい講義をありがとうございました。声に抑揚をつけたり、間をうまく活用するなど、相手にしっかり伝わるように意識しながらコミュニケーションを図っていきたいと思います。
- * とても聞きやすい話し方で、さすがプロだと思いました。自分も聞き取りやすい発音や話し方を意識して授業ができるように気をつけたいと思います。
- * 授業の際の発音や滑舌に不安があったが、今日の研修会は非常に参考になりました。
- * I thought this was really enjoyable! I learned a lot about the best ways to engage students.

2. 今後に活かしたいと思ったこと

- * 非言語コミュニケーションと呼ばれるさまざまな要素が、「伝える」時には大切だということがよくわかりました。普段発音、腹式呼吸など意識せず話していたので、これから少し意識しようと思いました。舌の体操も疲れましたが、滑舌がよくなりそうで実践していこうと思います。大杉様の声色の換え方に驚きました！色々と参考になる講座でした。ありがとうございました。
- * 母音の練習は役に立つと思います。
- * マスク着用の影響により、発声を省略する傾向がみられることに納得しました。マイクに頼りすぎず、話す時は発声について意識するほか、間や抑揚を心がけるなど、今後の参考にしたいと思います。ありがとうございました。

